調査レポート

沖縄県内における 2023 年プロ野球春季キャンプの経済効果
―　経済効果は３年ぶりに 100 億円台に回復―

（要　旨）

- 2023 年の沖縄県内におけるプロ野球春季キャンプの経済効果は、101 億 5,300 万円となり、2022 年の 43 億 4,700 万円を上回った。
- 延べ観客数は約 37 万 9,000 人となり、前年（11 万 4,000 人）から 232.5%増となった。うち県外からの観客数は約４万 9,000 人と推測された。
- 今年はコロナ対策の行動制限がなく人流回復が顕著となり、各キャンプ地では賑わいがみられ、県内客、県外客ともに増加し経済効果の増加に寄与した。
- プロ野球春季キャンプは、観光のオフシーズンに多くの観客や関係者が来沖し消費活動を行うことから県経済に与えるインパクトは大きい。経済効果の最大化を目指すにあたり、観光消費額の大きい県外客の誘客および消費行動を促すことが重要である。
- また、地元飲食店や土産品店の出店促進に加え、導線を意識した会場づくりなど、キャンプ地の賑わい創出及び来場者の消費行動を促す仕掛けづくりに取組む必要があろう。
- プロ野球春季キャンプをはじめとするスポーツツーリズムを目的とした来県は、沖縄観光における新たな客層の獲得及びリピーター創出へとつながる。「観光消費額の平準化」という課題を抱える当県において、温暖な気候を活かしたスポーツツーリズムの存在意義は大きく、その重要性は今後益々高まっていくものと考えられる。
- 県内におけるプロ野球春季キャンプが、より魅力のある観光コンテンツとして定着し、より多くのファンを惹きつけるためには、迎え入れる側の姿勢が問われる。
- 県や自治体、民間が連携し、そして地域住民の理解・協力を得ながら、継続的な受け入れ態勢の整備・構築を図り、キャンプ集積地としての価値を高め、県経済の活性化へとつながることに期待したい。

（目　次）

1.　2023 年のプロ野球春季キャンプの概要

（１）　キャンプ実施球団の状況……2

（２）　キャンプ参加者・観客の人数……3

2.　経済効果の試算について

（１）　春季キャンプの関連支出額（直接支出額）……3

（２）　春季キャンプの沖縄県内における経済効果……4

（３）　産業別の経済効果……5

3.　プロ野球春季キャンプ経済効果の拡大に向けた課題と展望……6

１．2023 年の春季キャンプの概要

（１）　キャンプ実施球団の状況

2023 年２月に沖縄県内で春季キャンプを実施した国内プロ野球球団は、12 球団中９球団で前年と同じ球団数となった（図表１）。また、１軍キャンプは９球団、２軍キャンプは５球団となった。開催球場は前年と同様で 14 球場となり、キャンプ期間は前年よりやや短くなる傾向にあった。

今年はコロナ対策の行動制限がなく、人流回復が顕著となり、県外客の姿も多くみられ活況を呈した。また、多くの球団で３年ぶりとなるファンサービスが再開されるなど、各キャンプ地ではコロナ前を彷彿とさせるような賑わいがみられた。その他、県内大学で初のドラフト１位指名を受けた注目ルーキーの仲地礼亜選手のキャンプインや、今年３月に開催されたワールド・ベースボール・クラシック（ＷＢＣ）に侍ジャパンとして選出されたロッテの佐々木朗希選手、ヤクルトの村上宗隆選手など人気選手の参加もあり注目を集めた。

（図表１）沖縄県内における2023年春季キャンプの実施状況

球団名（略称）	キャンプ地	開催球場	キャンプ期間		
			2月	3月	日程
北海道日本ハムファイターズ（日本ハム）	名護市	タピックスタジアム名護			2/1～2/26
（二軍）	国頭村	かいぎんスタジアム国頭			2/1～2/25
広島東洋カープ（広島）	沖縄市	コザしんきんスタジアム			2/17～2/28
中日ドラゴンズ（中日）	北谷町	Agreスタジアム北谷			2/1～2/26
（二軍）	読谷村	オキハム読谷平和の森球場			2/1～2/24
横浜DeNAベイスターズ（DeNA）	宜野湾市	アトムホームスタジアム宜野湾			2/1～2/26
東京ヤクルトスワローズ（ヤクルト）	浦添市	ANA BALL PARK 浦添			2/1～2/27
阪神タイガース（阪神）	宜野座村	宜野座村野球場			2/1～2/27
（二軍）	うるま市	うるま市具志川野球場			2/1～2/27
東北楽天ゴールデンイーグルス（楽天）	金武町	金武町ベースボールスタジアム			2/1～2/19
（二軍）	久米島町	久米島野球場			2/1～2/19
千葉ロッテマリーンズ（ロッテ）	石垣市/糸満市	石垣市中央運動公園野球場/西崎運動公園			2/1～2/23
（二軍）	石垣市	石垣市中央運動公園野球場			2/1～2/26
読売ジャイアンツ（巨人）	那覇市	沖縄セルラースタジアム那覇			2/16～3/5

（出所）球団HPおよびスポーツ紙報道よりりゅうぎん総合研究所作成

（２）　キャンプ参加者・観客の人数

①　選手・球団関係者・報道陣

キャンプ参加人数は、選手（１～２軍計）・球団関係者は全９球団合計で約 1,100 人（前年と同数）となり、報道関係者や解説者は約 2,000 人（前年比約 100 人減）となった。報道関係者や解説者は、県出身選手の参加や、セ・リーグ２連覇を果たしたヤクルトのキャンプインなど話題が多く注目を集めたが、パドレスのダルビッシュ有選手など有名選手らが参加した侍ジャパンの宮崎キャンプが同時期に実施されたこともあり、県内へ訪れる報道関係者は減少した。

②　観客数

キャンプ期間中の延べ観客数は、約 37 万 9,000 人（オープン戦含む）となった。厳しい入場制限が敷かれていた前年の反動に加え、天候に恵まれた日が多く、また、人気選手のキャンプインなどもあり、前年（約 11 万 4,000 人）から 26 万 5,000 人増と、大幅に増加した。３年ぶりに再開した選手とファンの交流イベントでは、サイン会やトークショー、野球教室、ブルペン見学ツアーなど、各球団によるさまざまなファンサービスが復活し、観客数の増加に寄与した。その他、韓国プロ野球のサムスン・ライオンズや、台湾プロ野球の楽天モンキーズとの交流戦も３年ぶりに行われた。

延べ観客数のうち、県外からの観客数は約４万 9,000 人と推測され、前年（約 9,000 人）から４万人増加した。全国的に行動制限がなく、人流回復が顕著となったことに加え、全国旅行支援などの旅行需要喚起策が追い風となり、入域観光客数が増加したことなどが県外客増加の主な要因と考えられる。また、前述したように、キャンプの醍醐味であるファンサービスや交流イベントが再開したことで、キャンプリピーターの来県もみられた。

２．経済効果の試算について

（１）　春季キャンプの関連支出額（直接支出額）

キャンプでは、球団関係者のほかに県外からの観客が県内で宿泊、飲食、娯楽レジャー、土産品・グッズ購入などに支出するほか、多くの県民がキャンプ地へ出かけて飲食や土産品・グッズを購入する。また、キャンプ受け入れ地の市町村による練習施設等のインフラ整備や、協力会によるキャンプ応援のための関連経費の支出などがあり、これらを合計したものが直接支出額となる。

この直接支出額を推計すると、総額で 71 億 2,700 万円となり、前年（29 億 7,500 万円）を 41 億 5,200 万円上回った（図表２）。

試算結果の内訳をみると、宿泊費が 21 億 2,900 万円で最も多く、次いで飲食費が 15 億 5,900 万円、土産品・グッズ購入が８億 7,900 万円などとなった。前年からの反動に加え、行動制限がなく観客数が増加したことなどから、多くの項目で大幅に増加した。

（図表２）2023年プロ野球春季キャンプ関連支出額（直接支出額）

支出項目	支出額（百万円）	前年差（百万円）
宿泊費	2,129	1,250
飲食費	1,559	898
土産品・グッズ購入	879	667
交通費	722	469
娯楽・レジャー費	543	375
練習施設等の整備費	539	162
アルバイトへの支払い	97	4
クリーニング代	86	6
施設等使用料	59	6
その他	514	317
合計	7,127	4,152

（出所）りゅうぎん総合研究所

（２）　春季キャンプの沖縄県内における経済効果

まず、県内の産業全体の自給率は100％ではないため、（１）で求めた直接支出額71億2,700万円に自給率を掛けると県内で供給された分である63億7,700万円が求められ、これが直接効果となる（図表３）。

次に、直接効果である宿泊費、飲食費、交通費、施設整備費などが県内で支出されると、当該産業だけでなく、こうした産業に原材料、サービスなどを提供している産業の売上増加へと波及していく。これを１次間接効果といい、これが25億700万円となる。さらに、直接効果と１次間接効果で生じた各産業における雇用者の所得増加は、これら雇用者の消費支出を増加させ、関連する各産業の生産を誘発していく。これを２次間接効果といい、これが12億6,900万円となる。

これらの直接効果、１次間接効果、２次間接効果を合わせた金額が101億5,300万円となり、これがいわゆる県内におけるプロ野球春季キャンプの経済効果となる。

また、これらの効果のうち、賃金などの雇用者所得や企業の営業余剰などに当たる粗付加価値額が54億800万円となり、この中で雇用者所得が24億4,800万円となる。今年の経済効果である101億5,300万円は、前年（43億4,700万円）を58億600万円上回った。

（図表３）2023年プロ野球春季キャンプ経済効果の試算結果

【単位：百万円】

	経済効果（生産誘発額）	粗付加価値誘発額	雇用者所得誘発額	営業余剰誘発額
直　接　効　果	6,377	3,190	1,488	733
1　次　間　接　効　果	2,507	1,403	624	362
2　次　間　接　効　果	1,269	815	336	247
総合効果　（経済効果）	10,153	5,408	2,448	1,342
直　接　支　出　額	7,127	－		
波　及　効　果	1.4　（倍）…(総合効果/直接支出額)			

（出所）りゅうぎん総合研究所

（注）１．直接効果は、直接の支出による効果（自給率が100％でなければ移輸入の分、直接支出額を下回る）。

２．１次間接効果は、原材料を他の産業から購入することによって起こる波及効果。

３．２次間接効果は、直接効果、１次間接効果によって生み出された雇用者所得の増加が個人消費の拡大を通して再び生産を誘発する効果。

４．生産誘発額は、直接支出の増加により誘発された各部門の生産額の合計。

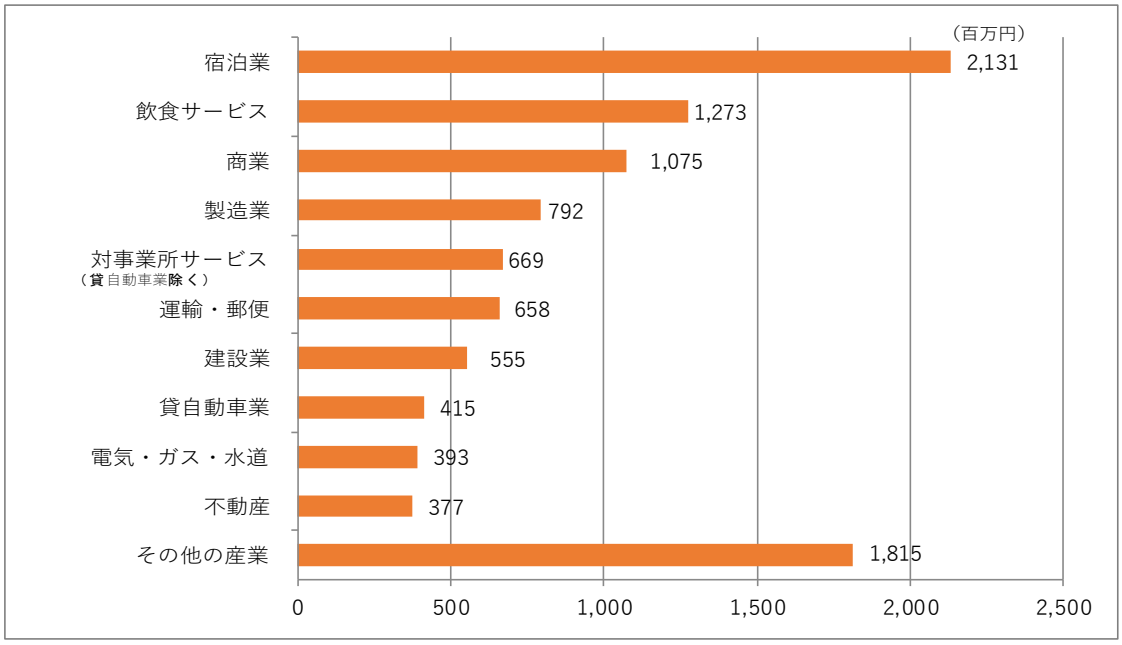
５．付加価値は、誘発された生産額の中に占める粗付加価値（雇用者所得や営業余剰など）。

６．端数処理により合計は合わないことがある。

（３）　産業別の経済効果

今年の経済効果である 101 億 5,300 万円を産業別にみると、宿泊業が 21 億 3,100 万円と最も大きく、次いで飲食サービス（飲食店など）が 12 億 7,300 万円、商業が 10 億 7,500 万円、製造業が 7 億 9,200 万円、対事業所サービス（貸自動車業除く）が 6 億 6,900 万円などの順となった（図表４）。

（図表４）2023年プロ野球春季キャンプにおける産業別経済効果



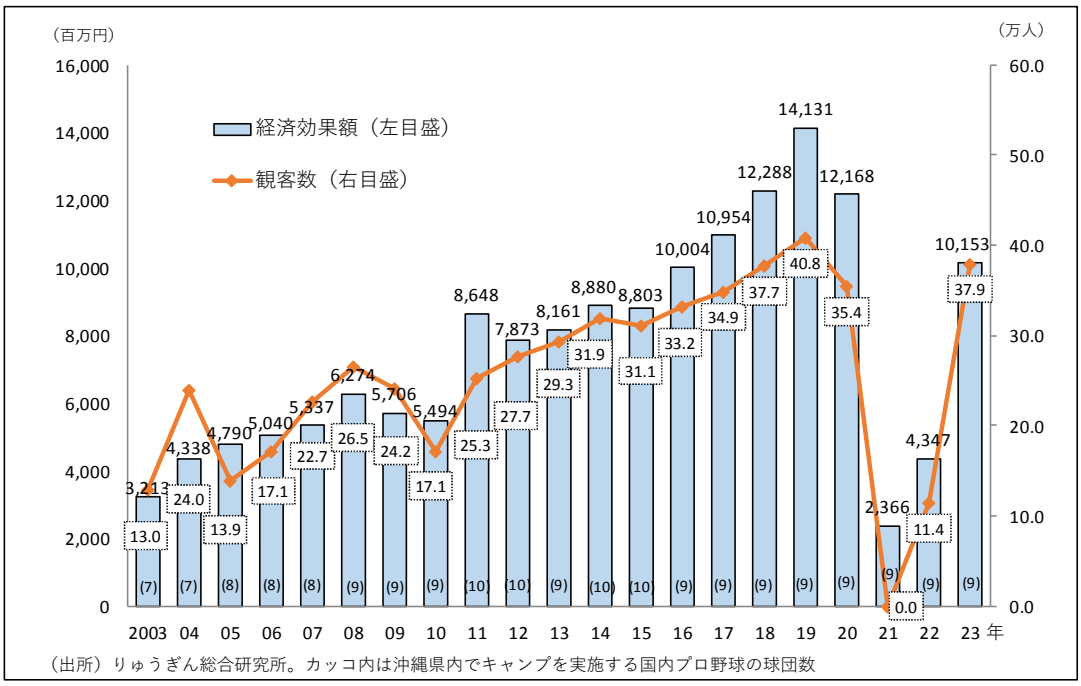
（出所）りゅうぎん総合研究所

３．プロ野球春季キャンプ経済効果の拡大に向けた課題と展望

2023 年の県内におけるプロ野球春季キャンプの経済効果は、前年比 133.6%増と大幅に増加した（図表５）。キャンプ実施球団数は前年と同数の９球団となったが、コロナ禍で厳しい感染対策が講じられた前年からの反動に加え、人流回復に伴い観客数が増加したことで消費額が増加し、経済効果の増加に寄与した。

コロナ禍以前の 2019 年との比較では、消費額の大きい県外客が減少したことなどから、28.8%の減少となった。

（図表５）プロ野球春季キャンプの経済効果と観客数の推移



（出所）りゅうぎん総合研究所。カッコ内は沖縄県内でキャンプを実施する国内プロ野球の球団数

プロ野球春季キャンプは、観光閑散期である２月に多くの観客や関係者が来沖し消費活動を行うことから、県経済に与えるインパクトは大きい。

県内キャンプの継続実施に向け、これまで各自治体や協力会においては、球団側の要望に対し柔軟かつスピード感を持って対応してきた。特にハード面においては、近年加速する施設整備の状況からもわかるように、球場の建て替えや改修、雨天時でも練習可能な屋内練習場やブルペンの併設など、よりレベルの高い練習環境の実現に努めており、こうした努力が球団側との信頼関係の構築に寄与している。足元では、キャンプ受け入れ地である嘉手納町の嘉手納球場において、大規模な建て替え工事が行われており、県内初の全面人工芝を擁したプロ野球公式戦にも対応する球場施設へと生まれ変わる見込みである。一方で、老朽化が進む施設も多く、修繕や機能強化など更なるレベル向上を望む球団も多い。安定したキャンプ実施に向け、引き続き球団側の要望に出来る限り対応していくことが望まれる。

今後、プロ野球春季キャンプ実施による経済効果の最大化を目指すにあたり、観光消費額の大きい県外客の誘客および消費行動を促すことが重要である。地元飲食店や土産

品店の出店促進、グッズ販売店の充実に加え、導線を意識した会場づくりなど、キャンプ地の賑わい創出及び来場者の消費行動を促す仕掛けづくりに取組む必要があろう（図表６）。

また、キャンプ地が分散されていることで経済効果が各市町村に及ぶメリットを活かした仕組みづくりの検討も必要である。国内有数のキャンプ地であり、プロ野球４球団が春季キャンプを実施する宮崎県においては、周遊性や利便性の向上に加え、消費額向上を図る目的で、例年、キャンプ地をつなぐシャトルバスを運行する。シャトルバス運行により、利用者の利便性向上につながっているほか、各キャンプ地に滞在する時間が一定程度確保されることで消費額の増加へとつながり、経済効果が各市町村へと及ぶ。利便性やアクセス性向上を図ると同時に、消費単価の向上へとつながる仕組みが構築されている。

プロ野球キャンプをはじめとするスポーツツーリズムを目的とした来県は、沖縄観光における新たな客層の獲得及びリピーター創出へとつながる。また、「観光消費額の平準化」という従来からの課題を抱える当県において、温暖な気候を活かしたスポーツツーリズムの存在意義は大きく、その重要性は今後益々高まっていくものと考えられる。

県内におけるプロ野球春季キャンプがより魅力のある観光コンテンツとして定着し、より多くのファンを惹きつけるためには、迎え入れる側の姿勢が問われる。県や自治体、民間が連携し、そして地域住民の理解・協力を得ながら、受け入れ態勢の更なる整備・構築を図り、キャンプ集積地としての価値を高め、県経済の活性化へとつながることに期待したい。

（図表6）プロ野球春季キャンプの課題

プロ野球春季キャンプの経済効果拡大に向けた課題		
ハード面	球場施設	老朽化が進む球場施設の修繕や機能強化等、更なるレベル向上を図り、キャンプ集積地としての価値を高める
ソフト面	消費喚起策	観光消費額の大きい県外客の誘客および消費行動を促す仕掛けづくり
	各キャンプ地の連携	受け入れ自治体や協力会等、横の連携を更に強化し、県一体となった機運醸成を図る

（出所）りゅうぎん総合研究所

（りゅうぎん総合研究所　研究員　米須 唯）

【補注1】沖縄県内におけるプロ野球春季キャンプの実施状況（1979年～2008年）

暦　年	日本ハム	広島	中日	DeNA	オリックス	ヤクルト	阪神	楽天	ロッテ	巨人	ソフトバンク	西武
1979	（投手陣）名護市	◎						（○）				
80		◎						（○）				
81	（一軍）名護市 ○									◎		
82		（一軍）沖縄市	○									◎
83			（一軍）石垣市							○		◎
84	（一軍）名護市（二軍）宜野座村	◎			○							
85	（一軍のみ）名護市		（投手陣）具志川市				◎					○
86		○										◎
87			（一軍）石川市 具志川市	（一軍）宜野湾市						○		◎
88			○									◎
89			（一軍）石川市（二軍）具志川市		（投手陣）糸満市			（○）	（投手陣）那覇市	◎		
90					（一軍）糸満市					○	（一軍）読谷村（二軍）嘉手納町	◎
91		○			（一軍）糸満市（二軍）那覇市							◎
92						○						◎
93					（一、二軍）平良市 糸満市	◎						○
94					（一、二軍）平良市、糸満市、城辺町					◎		○
95					（一軍）平良市（二軍）城辺町 ○	◎						
96	（一軍）名護市（二軍）宜野座村		（一軍）北谷町（二軍）うるま市	（一軍）宜野湾市（二軍）嘉手納町	◎					○		
97			（一軍）石川市（二軍）読谷村			◎						○
98				◎								○
99			○								◎	
2000						（一軍）浦添市				◎	○	
01						◎		（○）				
02										◎		○
03	（一軍）名護市（二軍）東風平町						（一軍）宜野座村 ○				◎	
04			（一、二軍）北谷町 読谷村 ○		（一軍）平良市（二軍）平良市　城辺町							◎
05			（一軍）北谷町（二軍）読谷村 北谷町		（一軍のみ）平良市		○	（一、二軍）久米島町	◎			
06	（一軍）名護市（二軍）八重瀬町→国頭村 ◎		（一軍）北谷町（二軍）読谷村 ○		（一軍のみ）宮古島市							
07	（一軍）名護市（二軍）国頭村 ○		◎							○		
08									（一軍のみ）石垣市	○		◎ ○

【補注1】沖縄県内におけるプロ野球春季キャンプの実施状況（2009年～2023年）

暦　年	日本ハム	広島	中日	DeNA	オリックス	ヤクルト	阪神	楽天	ロッテ	巨人	ソフトバンク	西武
9	○				（一、二軍） 宮古島市	（一軍） 浦添市 （二軍） 八重瀬町				◎ ○		
10			○						◎		○	
11			○							（一軍のみ） 那覇市	◎ ○	
12	○									◎ ○		
13						（一軍のみ） 浦添市		◎ ○		○		
14									（一、二軍） 石垣市	○	◎ ○	
15					（二軍のみ） 宮古島市	○					◎ ○	
16	◎ ○	○										
17		○									◎ ○	
18		○						（一軍） 久米島町 →金武町 （二軍） 久米島町		（一、三軍） 那覇市	◎	○
19										○	◎	○
20		（一、二軍） 沖縄市								（一軍のみ） 那覇市 ○	◎ ○	
21		（一軍のみ） 沖縄市			○	◎ ○		（一軍） 金武町 （二軍） うるま市				
22					○ ◎	○			（一軍） 石垣市 →糸満市 （二軍） 石垣市			
23				（一軍のみ） 宜野湾市			（一軍） 宜野座村 （二軍） うるま市	（一軍） 金武町 （二軍） 久米島町				
一　軍 キャンプ地	名護市	宮崎県/ 沖縄市	北谷町	宜野湾市	宮崎県	浦添市	宜野座村	金武町	石垣市/ 糸満市	宮崎県/ 那覇市	宮崎県	宮崎県
二　軍 キャンプ地	国頭村	宮崎県	読谷村	鹿児島県	宮崎県	宮崎県	うるま市	久米島町	石垣市	宮崎県	宮崎県	高知県

（出　所）　りゅうぎん総合研究所

（備　考）　1. 太線内のシャドー部分は沖縄県内で春季キャンプを実施。○はリーグ優勝、◎は日本シリーズ制覇。
2. 楽天の列の（○）は、05年からオリックスと合併した旧・近鉄のリーグ優勝。
3. 日ハム（1軍）の18年、19年の名護市キャンプは、新球場建築中のためサブグランドやブルペンでの練習となる。
4. ロッテ（1軍）は23年2月1日～12日まで石垣キャンプ、14日～23日まで糸満キャンプ。
5. 巨人（1軍）は、23年2月1日～13日まで宮崎キャンプ、2月16日～3月5日まで那覇キャンプ。

【補注２】：本調査で使用した産業連関表について

本件調査では、沖縄県の平成 27 年産業連関表を用いた。産業部門数で表示する部門表は産業分類 35 部門表をベースにしたが、35 部門表ではキャンプにおける主な支出項目である「宿泊業」や「飲食サービス」、「貸自動車業」などの部門が明示されていない。そのため、これらの産業部門については、県が公表した基本分類表（458 行×367 列）から該当する業種を抽出した。さらに、今回の分析において統合しても不都合がない部門を当社で統合し、本件調査の分析用に組み替えた。

また、産業連関表における各産業部門の自給率は、県内需要（＝県内居住者の需要）に対する自給率であるため、移輸出（＝非居住者の需要）は対象外となる。このため、統計上移輸出である「県外からの滞在者の支出（＝非居住者の需要）」の経済効果を試算する際にそのままの自給率を用いると不都合が生じる。例えば、宿泊業の自給率は、県内居住者の宿泊需要（県外旅行などを含む）のうち県内宿泊部門を利用した割合を意味するが、県内居住者の場合、県外宿泊の支出額が県内宿泊の支出額より大きいため、県内宿泊業の自給率は低くなる。しかし、キャンプ関連の宿泊費や飲食費は全て県内で発生するため、こうした支出に対して県内での自給率が明らかに 100％とみられる宿泊業、飲食店などについては自給率を 100％に設定しなおして使用した。

経済波及効果を求める式は以下のとおりである。

$$\triangle X_1 = [I - (I - \widehat{M})A]^{-1}(I - \widehat{M})\triangle F$$

$$\triangle X_2 = [I - (I - \widehat{M})A]^{-1}(I - \widehat{M})ckw\triangle X_1$$

$$\triangle X = \triangle X_1 + \triangle X_2$$

$\triangle X_1$：一次生産誘発額（直接効果＋一次間接効果）

$\triangle X_2$：二次生産誘発額（二次間接効果）

$\triangle X$ ：総生産誘発額（経済波及効果＝直接効果＋一次間接効果＋二次間接効果）

I ：単位行列

$\widehat{M}$ ：移輸入係数（対角行列）

A ：投入係数（行列）

$\triangle F$ ：最終需要増加額

c ：民間消費支出構成比

k ：消費転換係数

w ：雇用者所得率